

『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメント

— 通級指導教室における読み書きスキルの活用に基づく支援について—

企画者 中知華穂（日本学術振興会）・銘苺実土（東京学芸大学連合学校教育学研究科）
司会者 銘苺実土（東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科）
話題提供者 小池敏英（東京学芸大学教育学部）・緒方直彦（東京都教育庁）
中知華穂（日本学術振興会）・雲井未歎（鹿児島大学教育学部）
成田まい（NPO 法人スマイルブラネット）
指定討論者 須藤史晴（東京学芸大学大学院教育学研究科・世田谷区立砧小学校）
KEY WORDS: 読み書きスキル、アセスメント、通級指導教室

【企画趣旨】

インクルーシブ教育の展開に伴い、学習面に困難を有する児童への早期予防的支援の充実が求められている。小学校では、ひらがな文字、漢字、読解と多様な読み書きスキルの習得が求められる。そのため、各発達段階に応じて読み書きスキルを評価し、それに応じた支援を行う必要性がある。小池ら(2017)は、東京都教育庁の委託研究により児童一人ひとりの実態を把握し、指導・支援につなげる「読み書きアセスメント」の開発を行った。本アセスメントは、読み書きスキルの習得状況と指導課題を明らかにするために用いることが、期待される。特に通級指導教室の中では、読み書きは中心的な指導課題の1つであると指摘できる。これより、通級指導教室の児童における読み書きスキル習得の状況や読み書きスキルに応じた支援に関する議論が必要であろう。

本シンポジウムでは、1 題目に「読み書きアセスメント」の概要と背景について話題提供いただき（小池敏英氏・緒方直彦氏）、2 題目に通級指導教室を利用する小学 2 年生の読み書きスキルの習得状況について話題提供を行う（中知華穂・雲井未歎氏）。3 題目に通級指導教室における読解に関与する読み書きスキルの習得状況とその支援についてお話しいただく（成田まい氏）。最後に指定討論では、学校教育場面における読み書き学習の評価と支援の課題についてご発言いただく（須藤史晴氏）。

【話題提供者の趣旨】

1. 『読めた』『わかった』『できた』読み書きアセスメントの概要 小池敏英・緒方直彦

本アセスメントは、彌永ら(2017)、中村ら(2017)、Sato et al.(2017)、瀧元ら(2016)、Onda et al.(2015)、中ら(2014)の基準値により、ひらがなの読み、漢字の読み書き、読解などを含めた多様な読み書きスキルの習得状況を把握できるものである。本アセスメントでは、「通常学級でのアセスメント」と「通級による指導でのアセスメント」の 2 つに分かれており、「通級による指導でのアセスメント」では、学習上のつまずきの背景となるスキルを評価するためのテストが入っている。漢字単語の読み書きの低成績や文章読解の低成績に関与する聴覚記憶などのスキルの習得状況を把握し、通級における指導課題を明確にすることができる。また、これらのアセスメント結果に対応した支援方法や学習支援教材も用意されており、児童の実態把握から、指導・支援を一貫して行えるツールとなっている。

本話題提供にあたっては、この「読み書きアセスメント」の概要について報告する。

2. 通級指導教室を利用する小学 2 年生の読み書きスキルの習得状況 中 知華穂・雲井未歎

通常学級における小学 2 年生では、読み書きスキルの低成績の重複が、漢字単語の読み書き習得に関与することが指摘されている(中ら,2014)。一方、通級指導教室を利用する児童においても、これらのスキルの弱さが読み書きの低成績を反映している可能性が高い。しかしながら、通級指導教室を利用する児童の読み書きスキルの習得の状況については、明らかとされていない。そこで本報告では、通級指導教室を利用する小学 2 年生を対象に「読み書きアセスメント」を実施した結果を報告する。特に、通常学級における読み書きスキルテストの結果と、通級指導教室の児童の結果を比較し、通級指導教室における読み書きスキル低成績の特徴について話題提供を行う。

3. 通級指導教室における読解（要点理解）低成績の背景とその支援 成田 まい

小学校中高学年になると、ひらがなや漢字の読み書きは、低成績を示さないが、読解、特に文章の要点を理解すること（以下、要点理解）に弱さを示す者の存在が指摘されている（Sato, 2017）。通級指導教室においても要点理解に弱さを有する児童の存在が予想されるが、その特徴や背景要因については明らかとされていない。そこで本報告では、通級指導教室利用児童の要点理解の弱さとその背景となる読み書きスキルの習得の特徴について話題提供する。次いで、通級指導教室を利用する児童を対象に要点理解を促進するためのトレーニングを行った結果について報告する。

【指定討論者の趣旨】

須藤史晴

通級指導教室において、読み書き支援を行う際の留意点や課題について議論を行う。

【文献】

1)彌永ら(2017)小学 1・2・3 年生における特殊表記習得の低成績の背景要因に関する研究.特殊教育学研究.55. (印刷中) 2)小池ら(2017)「読めた」「わかった」「できた」読み書きアセスメント活用&支援マニュアル.東京都教育庁指導部特別支援教育指導課.3)中ら(2014)小学 2 年における漢字読字・書字困難のリスク要因に関する研究.特殊教育学研究.52,1-12. 4)中村ら(2017)小学 2~6 年生における漢字書字低成績の背景要因に関する研究.特殊教育学研究 .55. (印刷中)5)Onda et al.(2015) Risk factors for kanji words-reading difficulty in Japanese elementary school children. Journal of Special Education Research, 3 (2), 23-34. 6)Sato et al.(2017) Risk factors for difficulty in reading comprehension of multiple-paragraph expository text at third to sixth grade of Japanese elementary schools. Journal of Special Education Research, 5, 23-34. 7)瀧元ら(2016)学習障害児における改行ひらがな単語の音読特徴.特殊教育学研究 .54,66-75 . (NAKA Chikaho, MEKARU Mito, KOIKE Toshihide, KUMOI Miyoshi, OGATA Naohiko, NARITA Mai, SUTO Fumiharu)